

企業名： 株式会社メガチップス

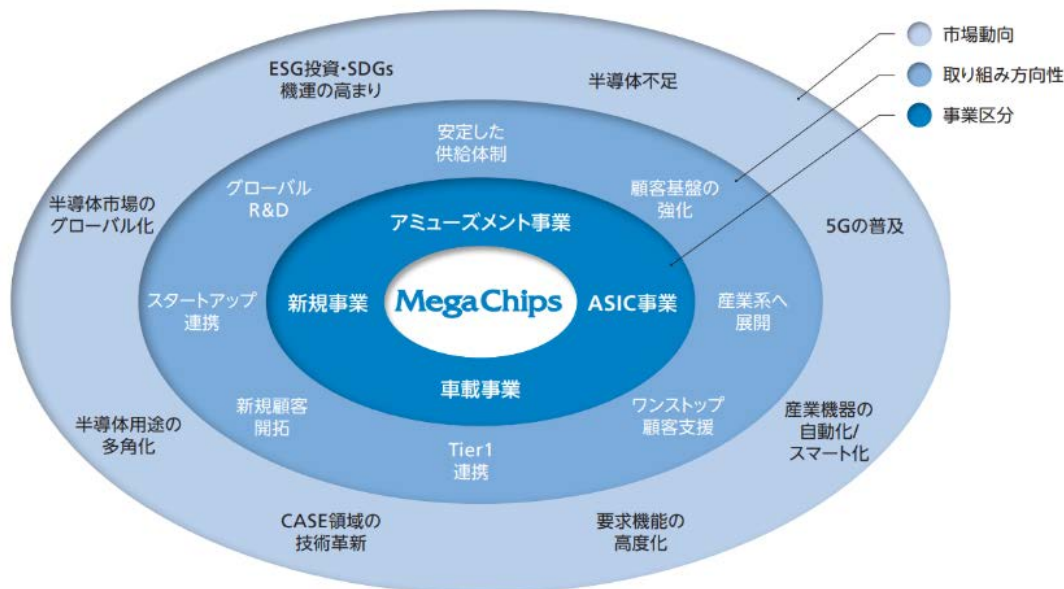
レポート名： MCC レポート 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

価値創造プロセスにおいて、メガチップスは自社が提供する最終的な価値を「サステナブル社会の実現に向けたより快適な安全で便利な暮らしへの貢献」としている。こうした目標を実現するため、メガチップスは2025年に向けた中長期ビジョンとして、現在の主力事業である「アミューズメント分野における ASIC 事業」に加えて、「アミューズメント分野以外の ASIC 分野」、「車載事業」、「新規事業」による事業ポートフォリオの構築を掲げている。既存のアミューズメント・ASIC 事業に関しては経営基盤の強化が課題となる。車載事業に関しては脱炭素社会の実現に向けて CASE などの改革をチャンスに高速有線 LSI で車載事業に参入するのに加え、次世代の高速通信の研究開発にも取り組んでいる。また、米国を中心にスタートアップ企業に対して提携・投資を行い、新規事業の獲得を目指している。この4つの事業についてメガチップスは図表1に示される通り「取り組みたい方向性」をそれぞれ挙げており、こうした目標に向けて精力的に取り組んでいると思われる。

以上より、メガチップスは現在のアミューズメント事業中心の状態を4つの事業からなる事業ポートフォリオへと成長させ、サステナブル社会や快適・安全・便利な生活の実現を目指していると考えられる。よって、メガチップスが目指す姿はよく理解できると思う。

【図表1】メガチップスを取り巻く事業環境



## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

メガチップスは創業時において、「経営資源を研究開発に集中することで独自技術を磨き、お客様の製品の競争力向上に貢献するシステム LSI を企画・開発・提供すること」を基本方針に定めた。この基本方針によりメガチップスは日本初のファブレス半導体メーカーとなり、資源を研究開発に集中することにより競争優位性を作り出していると思われる。また、研究開発においては「独自のアナログ・デジタル技術をベースにシステム LSI および当該製品を利用したソリューションを提供すること」を方針にしている。こうした研究により、メガチップスは独自技術による LSI の設計、開発から生産までのトータルソリューションを提供することができて、顧客や社会に対して価値を創出している。さらに、他社との差別化のために応用技術の研究開発にも取り組んでいて、知的財産権の権利化も進めている。

このように、統合報告書よりメガチップスの競争優位性を理解することはできた。しかしながら、それが世界規模での競争優位性に繋がるとは思えない。経営資源を集中することは確かに有効だが、それは何もメガチップスにしかできないことではない。実際、図表 2 が示すように、世界のファブレス半導体企業のランキング上位にメガチップスは登場しない。また、半導体業界全体でみた場合、より資源を豊富に有する企業は研究開発に特化しなくても価値を創造できる。そのため、世界は言うまでもなく、日本の半導体メーカーと比較してもメガチップスの売上高は高いとは言えない水準にあることを図表 3 から確認できる。とはいえ、メガチップスには独自の技術があるので、メガチップスにしか提供できない価値が存在すると考えられる。半導体産業は非常に広いため、単純な売上高による比較が適切でない場合も想定できる。

【図表 2】世界のファブレス半導体企業 収益ランキング (2021 年)

	企業名	収益 (百万ドル)
1	Qualcomm	29,333
2	Nvidia	24,885
3	Broadcom	21,026
4	MediaTek	17,619
5	AMD	16,434
6	Novatek	4,836
7	Marvell	4,281
8	Realtek	3,767
9	Xilinx	3,677
10	Himax	1,547

【図表3】日本の半導体業界 売上ランキング（2020年）

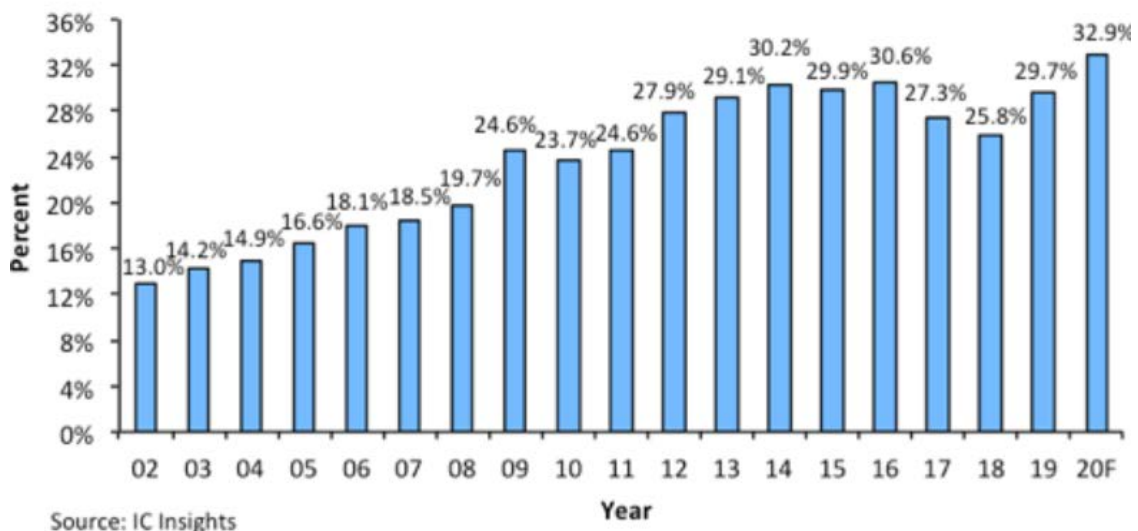
	企業名	売上高（億円）
1	キオクシア HD	11,785
2	ソニーグループ	9,378
3	ルネサンスエレクトロニクス	7,156
4	東芝	7,050
5	ローム	3,598
6	三菱電機	1,621
7	富士電機	1,540
8	サンケン電気	1,372
9	ソシオネクスト	1,026
10	メガチップス	838

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前項で確認したように、メガチップスの競争優位性は研究開発への経営資源の集中と独自技術による差別化をもって生み出されるソリューションにある。ファブレス半導体市場は図表4が示すように着実に成長しているのので、技術開発のスピードにメガチップスが付いていけばそれに伴ってメガチップスも成長できると思われる。

以上より、メガチップスの競争優位性は独自技術やファブレス半導体市場のさらなる拡大に支えられている。こうした条件が成り立つ限りメガチップスの競争優位性が失われる可能性は低いと、持続性があると考えられる。

【図表4】世界の半導体総売上に占めるファブレス半導体の比率

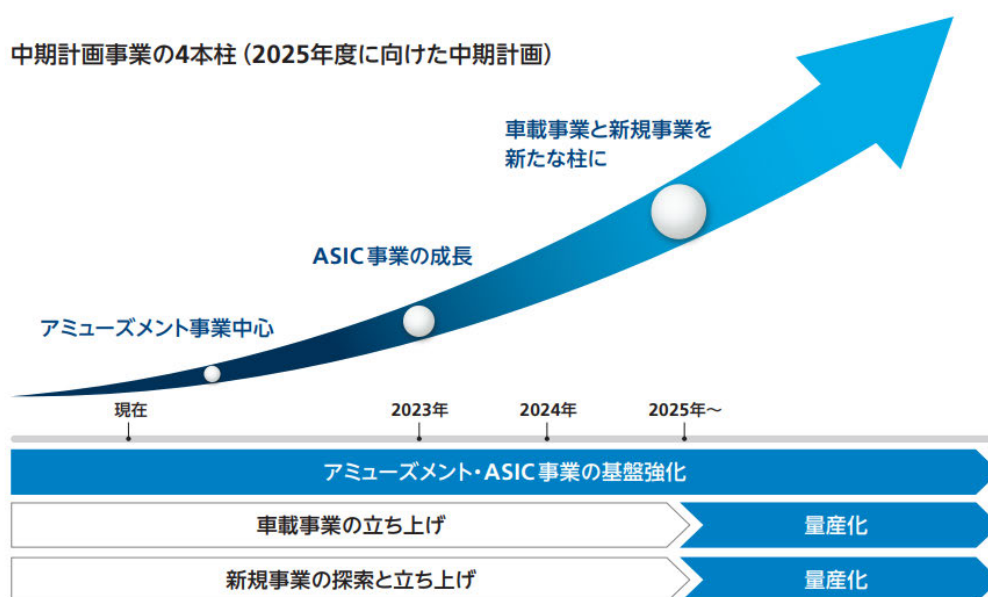


#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

メガチップスは将来世代への投資として多くの大学と共同研究をしている一方で、大学への寄付も行っている。また、研究開発に力を入れている企業であるので、エンジニアとして就職すれば成長できる場所は数多くあると思われる。さらに、ファブレス半導体市場まだまだ成長局面にあり、これから CASE や 5G などの変革に向けて様々なチャンスが発生すると考えられる。加えて、メガチップスは新規事業への参入や開拓も目指しているので、エンジニアでなくとも成熟した産業では得られない経験ができると思う。

以上の理由により、メガチップスに就職することで得られる貴重な体験を通して自身の人的資本の価値を向上させることは十分に望めると思う。特に図表5に示される中長期計画はこれからメガチップスが大きく成長できるかどうかを決める重要な計画であるので、この計画に関わることができれば尚更良い経験が得られると考えられる。

【図表5】メガチップスの2026年3月期までの中長期経営計画



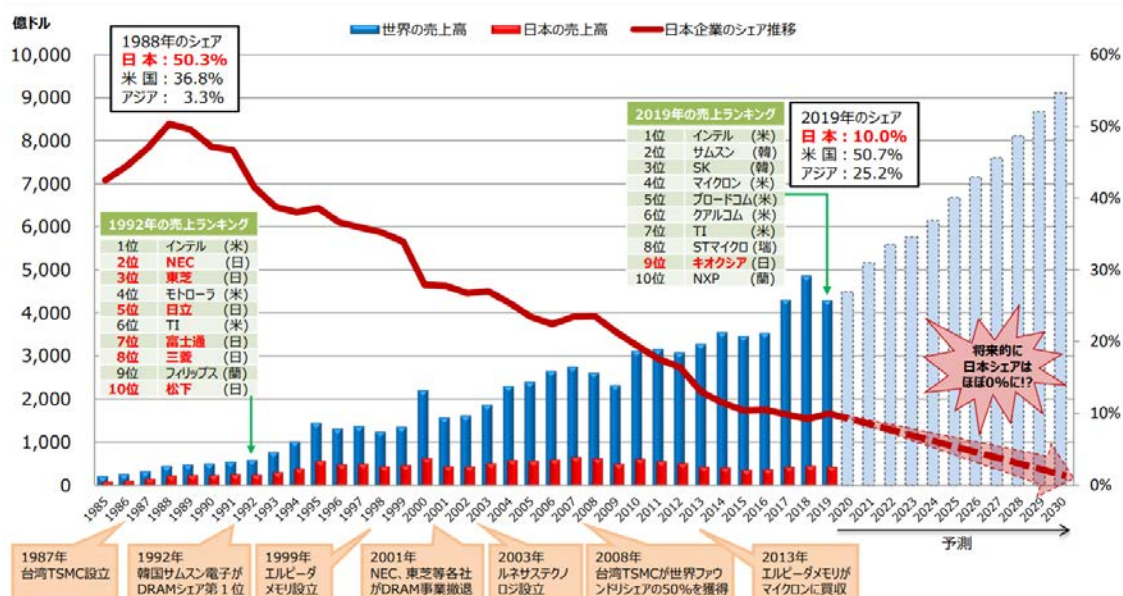
#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

項目3で述べた通り、この「MCC レポート 2021」の中で述べられている競争優位性だけでは不十分であり、世界規模の競争優位性には繋がらないと感じた。経営資源の研究開発への集中はどのファブレス半導体メーカーにも当てはまる特徴であるし、独自技術に至ってはどの半導体メーカーもそれぞれ持っていると思われる。こうした状況の中で、どうして顧客企業は他社ではなくメガチップスを選んでくれているのかについて掘り下げてほしいと思う。つまり、「メガチップスが提供できる価値」よりも「メガチップスにしか提供できない価値」にフォーカスしてほしいということである。世界的に見れば規模が小さいメガチ

ップスをあえて選んでいるわけだから、このような価値が存在しないことはないと思われる。独特なポジショニング、ニッチな市場への特化、特定の企業のニーズに徹底的に寄り添うビジネス展開など、様々な可能性が考えられる。こうしたことを報告書に含むことができればより正確にメガチップスの価値や魅力を伝えることができると思う。

また、図表6が示すように日本の半導体産業はかなり危機的な状況にあり、2030年までに国際的なシェアがほぼ0%になってしまう恐れがあると経済産業省に指摘されている。故に、メガチップスの今後の成長戦略にこうした問題を踏まえた表現や説明を含むことができればより説得力が増すと思う。

【図表6】日本半導体産業の国際的なシェアの推移



## 6. 参考文献

- ・株式会社メガチップス 「MCC レポート 2021」
- ・業界動向サーチ 「半導体業界 売上高ランキング (2020—2021年)」  
<https://gyokai-search.com/4-handou-uriage.htm> (参照：2022年7月4日)
- ・経済産業省 「半導体戦略 (概略)」
- ・Design-Reuse.com. (2022, March 24). *Amid Rising Volume and Pricing, Top 10 IC Design Companies Post 2021 Revenue Topping US\$100 Billion.* <https://www.design-reuse.com/news/51650/2021-global-top-10-ic-design-company-revenue.html>  
 (参照：2022年7月4日)
- ・IC Insights. (2020, December 28). *Fabless Company Share of IC Sales to Set New Record in 2020 at 32.9%.* <https://www.icinsights.com/news/bulletins/Fabless-Company-Share-Of-IC-Sales-To-Set-New-Record-In-2020-At-329-/> (参照：2022年7月4日)